

式 辞

木々の深い緑色と日差しの強さがすでに夏の到来を感じさせる今日、山形県立鶴岡南高等学校は創立百二十六周年を迎えました。石黒慶一同窓会長を始めとする同窓会役員の皆様、歴代の校長先生や御来賓の皆様、同窓生・保護者の皆様の御臨席を賜り、創立記念式典を挙げていきますことは、本校にとってこの上ない喜びです。昨年、創立百二十五周年を記念して、同窓会の皆様からこの鶴翔会館に冷房をつけていただき、本日こうして式典を開けます事を、生徒・教職員一同心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

さて、新しい年度がスタートして三ヶ月経ちましたが、新入生のみなさんは、鶴岡南高校の学習や生活、校風に慣れたでしょうか。新入生の歓迎会、部活動、壮行式や各種大会、定期戦等を通し、独自の校風、伝統を感じたことと思います。今日は創立つまりこの学校ができて百二十六年たったことを記念する、いわば学校の百二十六回目の誕生日という事で、昨年も話した内容で、二三年生にとっては繰り返しになりますが、この学校の歴史を少し振り返ってみたいと思います。

本校は正式には明治二十一年七月一日（西暦に直すと一八

八八年)、庄内私立中学校として設置されたのが最初となっています。当時の中学校はいわば高等教育で、高等教育を受けさせる場を作りたいという熱意の根底には、庄内藩の藩校「致道館」への思いが感じられます。致道館は明治六年に廃校となっていますが、四年後の明治十年に鶴岡中学校が設立され、鶴岡変則中学校(現在のよような総合的に多くの教科を教えるのではなく、外国語や医学等に特化して教える学校)になりました。明治十三年には西田川郡立中学校と改称となりました。これが鶴岡の高等教育の始まりのようです。本来ならば明治十年が創立の年となりそうですが、明治十九年、中学校令が公布され、地方費の支出または補助によるものは各府県一個所に限る、区町村費で設置することはできない、と一府県一校設置の原則が打ち出されたために西田川郡立中学校は廃校となりました。そのためこの庄内に中学校が無くなり、様々な人々が奔走し、私立と言う形で明治二十一年に設置されたのが本校の創立となっています。

それから八年後の明治三十四年に県立庄内中学校となり、大正九年には県立鶴岡中学校、昭和二十三年に山形県立鶴岡第一高等学校、昭和二十五年に鶴岡高等学校、とめまぐるし

い変遷を経て、昭和二十七年に鶴岡南高等学校となります。

これらの事は、創立百周年の記念に編纂された本校の百年史にかなり詳しく書かれており、本校の百年史はそのままこの地区の教育史とも文化史ともいえるのではないかと思いません。非常におもしろく、図書館にありますので、生徒の皆さんも是非目を通してみて下さい。百年の間には火災で校舎を焼失した事もありましたし、現在の鶴岡北高等学校と統合した時期もありました。昭和二十四年から十八年間は普通科のほかにも理科ではなく商業科が設置されていました。

定時制通信制に関して言えば、昭和二十三年の新たな学制の施行にともない、鶴岡第一高等学校となった時、それまで私立の夜間中学として開校されていたのが、定時制課程として県立高校に併置され、新たに通信制の課程も併設開校されました。百年史には、全日制の生徒と夜間定時制の生徒との間でやり取りされた、共有ノートについても記されていて、それを読むと今も昔も変わらない学生の姿が見えてきます。他にも学校新聞から各部の活動や本校生の学習の実態、またズックでの登校が問題となっていた事がわかります。生徒指導や学習指導などについても興味深い記述があり、現在の鶴

岡南高校は、この様々な出来事の上にあるのだということ
再認識しました。

昨年も話しましたが、私は学校というのは一つのブランド
のようなものだと思っています。古い伝統を持つブランド、
新しく出来たばかりのブランド、地域に根差したブランド、
小さなしかし特徴のあるブランド。ブランドにはいろいろあ
りますが、鶴岡南高校は百二十六年という長い歴史をもつ伝
統的なブランドです。学校にはそれぞれ特徴的な雰囲気があ
り、それを校風と言ったりしますが、その学校の持つイメー
ジの総体といったようなもの、それこそがブランドなのだとい
思います。ブランドは守り、育てていくものです。教職員・
生徒・保護者・同窓生・その他大勢の関係者に守られ育てら
れて今の鶴岡南高校というブランドがあり、このブランドを
今体現しているのは生徒のみなさんひとりひとりなのだとい
うことを忘れてはならないと思います。

さらに、鶴岡南高校というブランドには伝統とともに、脈々
と繋がる多彩な人材があります。社会に出て行った時、皆さ
んは母校の諸先輩が様々な分野で活躍している姿を目にする
ことでしよう。同年齢の横の繋がりだけでなく、同窓会を通

して縦の繋がりも築き、力にすることのできる人間に成長して欲しいと願っています。

ブランドはそのままだと古くなり力を失ってしまいます。基本となる伝統の上に、常に新しい何かをプラスしてブランドとしての魅力を維持していく必要があります。

今、鶴岡南高校に新たな魅力として加えようとしているのが、SSHの取り組みであり、「探究的な学び」です。単に知識を受け入れるだけではない、自らが見つけ、調べ、実証する主体的な学びを身につけて欲しいと思います。「学び」の本質は自分が抱いた疑問に自分で答えを見つけることにあると私は思います。

この学校の創立の歴史を見ると、この地域の人々の教育に対する熱い思いに胸をうたれます。創立記念式典に臨み、今一度本校の百二十六年と言う時間の積み重ねに思いをはせるとともに、ここに集まった皆様と共に、鶴岡南高等学校というブランドの更なる発展のため努めていくことを誓い、式辞といたします。

平成二十六年七月一日

山形県立鶴岡南高等学校長 柴田 曜子